



牧田山の神

九里半街道・伊勢西街道



山の神

山の神は山に宿る神の総称である。山神とも言う。

【歴史】

実際の神の名称は地域により異なるが、その総称は「山の神」「山神」でほぼ共通している。その性格や祀り方は、山に住む山民と、麓に住む農民とで異なる。どちらの場合も、山の神は一般に女神であるとされており、そこから自分の妻のことを謙遜して「山の神」という表現が生まれた。このような原像は『古事記』、『日本書記』のイザナミノミコトとも一致する。



乙坂 山の神(元神)

【概要】

農民の間では、春になると山の神が、山から降りてきて田の神となり、秋には再び山に戻るという信仰がある。すなわち、1つの神に山の神と田の神という2つの霊格を見ている事に成る。農民に限らず日本では、死者は山中の常世に行って祖霊となり、子孫を見守るという信仰があり、農民にとっての山の神の実態は祖霊であるという説が有力である。正月にやってくる年神も山の神と同一視される。また、山は農耕に欠かせない水の源である事や、豊饒をもたらす神が遠くからやってくるという、来訪神(客神まれびとがみ)の信仰との関連もある。牧田の山の神は、農民の神として祀られている。

猟師・木樵・炭焼きなどの山民にとっての山の神は、自分たちの仕事場である山を守護する神である。農民の田の神のような去来の観念はなく、常にその山にいとされる。この山の神は一年に12人の子を生むとされるなど、非常に生殖能力の強い神とされる。これは、山の神が山民にとっての産生神でもあったためであると考えられる。女神であることから出産や月経の穢れを特に嫌うとされるほか、祭の日には女性の参加はゆるされてこなかった。

鉾山においては、安全と繁栄を祈願してカナヤマヒコ・カナヤマヒメを祀る神社が多く、これらも略称して山の神と称する。



出屋敷 山の神(下神)

おおやまつみのみこと

大山祇命

大山積、大山津見とも書き、和多志大神ともいわれる。伊邪那岐・伊邪那美二神との間に生まれた神である。大山津見とは大山に住むという意で、大山を管理するというのが神名の由来である。また、和多志大神の和多は海神の「海」の意であり、この神を祀る本源の神社愛媛県の大三島に鎮座する大山祇神社の社伝では、山・海兼備の神であるとしている。この神の娘に当る木花佐久夜毘売命が皇子彦火出見命を生み奉ったとき、大山祇命が大喜びして天甜酒(あめのたむぎざけ)を造り、天地の神々に供して祝った。これが稲から酒を造った始まりとして、酒造りの祖神としても尊ばれている。武士からは武門の守護神とされ、特に水軍の崇敬は熱烈を極めた。

兄弟神／天照大神(伊勢神宮)
金山彦命(南宮大社)
素戔鳴命(二又・山村の神社)などがある。

発行

九里半歴史文化回廊

大垣市上石津町牧田4024-5 ☎0584-47-2301

牧田地区社会教育推進協議会

2019.3.1発行

◆牧田 山の神一覧表

	①② 門 前	③ 一 色	④ 上 野	⑤ 出屋敷	⑥⑦ 二 又	⑧ 山 村	⑨ 乙 坂
鎮座場所	長根作業道入口から2Km	金 糞 谷 から 仏 谷 を100m入る	秋葉山の中腹 秋葉神社の西80m	奥神)新林道の津島神社元神の横 下神)名神を潜り、旧林道右手五輪塔2基	上) 榎谷の中腹(下)中村産業の北・名神の下	谷 山 谷 名 神 か ら200m入る	八幡神社の西隣(昭和32年頃) 名神高速用地買収に架かる
以前	雨乞い山(関ヶ原CCCの中)西の谷(現在地より少し東)		宮ヶ谷名神から100m入る	奥神さんは、津島神社元神さんから左手へ50m程 登った所にあった	中)現在未確認		乙坂山中腹の南宮神社尾根界 八幡神社裏移転(時代は不明)
御神体	大山祇命(上石津町史から)	大山祇命(上石津町史から)	大山祇命(上石津町史から)	大山祇命(上石津町史から)	大山祇命(上石津町史から)	大山祇命(上石津町史から)	大山祇命(上石津町史から)
祭礼日	11月第4日曜日(平成26年から)	12月第1日曜日	12月2月の第1日曜日	12月クリスマス会も兼ねる	12月、2月の第1日曜日	12月、2月第2日曜日	1月3日(歳旦祭の後)神官が祝詞をあげる
以前	3月第3日曜日と11月第4日曜日	15年前は12月と2月		12月と2月			12月、2月の第2日曜日
祭 事 執行者	神社当番	総代当番10戸(15年前から)	小学生男子	小1年から中3年の男女	小学生男女(平成10年から)	小1年から中2年までの男子	自治会
以前	子ども会(平成26年まで)	5歳から6年生の男子	昭和30年まで中学生も入る 平成始まで西組・東組分れる 一時期女子も入る(3年間位)	小1年から中3年の男子	小学生男子 戦後間もなくは西・中・東分れる	小1年から中3年までの男子	中学生以下の男子
祭用具 お供え	しめ縄(正面と社を囲う) お供(お神酒一升・するめ・昆布・大根・人参・いたけ)	しめ縄・御幣・三方(するめ・串刺し)	しめ縄・御幣・三方(お神酒・塩・洗米・白蒸・果物・菓子など)	しめ縄・御幣(美濃紙・樺(色紙で飾る)) 大樺1本と参列者全員に小樺・竹んぼ(お神酒すず) 下神で油揚げと混ぜご飯を供え、全員でいただく	しめ縄・御幣(五色)2組 お神酒と油あげ	しめ縄・御幣 お神酒1合・白蒸1升 するめ・菓子	お神酒・塩・水・洗い米・山・川、野の物
以前	しめ縄(正面と社を囲う) お供(お神酒一升・するめ・昆布・大根・人参・いたけ・油揚げ)	しめ縄・御幣・三方(お神酒・握飯・串刺し)			油あげと、ろうそくに火を点け、かやくご飯に刺し・食べる		御幣・三方(油揚げ・五目ご飯・白むし)
神輿	神輿無し	神輿あり 戸々廻る	神輿2基あり、戸々廻る 神輿は昭和59年頃新調	神輿無し	神輿無し	神輿無し	神輿無し
掛け声	山の神さんのお祝いじゃ おひいさんじゃ ひいさんじゃ	山の神さんのお祝いじゃ 米なら1升 銭なら100文 よーい参上	山の神さんのお祝いじゃ お陽いさんじゃ 陽いさんじゃ	山の神さんのお祝いじゃ お神酒さん、米五合	山の神さんのお祝いじゃ やーほー ほうやー	陽いさんじゃ 陽いさんじゃ 山の神さんのお祝いじゃ	山の神さんのお祭りじゃ お陽いさんじゃ 陽いさんじゃ 山の神さんのお祝いじゃ お陽いさんじゃ 陽いさんじゃ
宿	平成27年から廃止	無し	集会場	サブセンター	二又コミュニティセンター	子どもの当番制	無し
以前	年長者順家右廻り一ヶ所に統合後は道場	年長者の家 一度やれば以後免除	年長者の家	子どもの家廻り持	年長者の家(部屋を分ける高学年は二階・他は一階)	年長者の家	年長者の家
資金	自治会費	自治会費	神輿のご祝儀300円以下集める	子ども会費	自治会1人当3,000円補助	1戸500円集める	自治会費
以前	各戸を廻り集める(現金・米・野菜) 余剰米を現金化する 入会時にお酒を出した	各戸を廻り集める(米1升・又は現金) 余剰米を現金化する	事前に米を集める 余剰米を現金化する 神輿のご祝儀 一戸一律300円集める	お金と米を全戸を回り集める(中学生)	平成10年以前は、学年差を付け、会費徴収(1,000円~1,600円) 各戸を廻り集める 子どもが生まれると米1升	各戸を廻り集める 平成25年までは決まり無く、金額はまちまち	各戸を廻り集める 当日午前中全員
おこない	参拜	神社当番 午前中	総代10名 6時に集合	午前6時 宿へ集合 6時30分 宿を出発(しめ縄・御幣・お神酒・お供え)	暗い内に宿に集合(庭で火を焚く) (御幣・竹んぼ・大樺・樺・お供品)の順に整列し出発する。下神でお参りした後、役付者のお奥の神へ向かう。 途中大樺を邁つぽに投入	午前7時30分頃コミセン集合、午後1時コミセン出発 (しめ縄・御幣・お神酒・お供え)	午前6時30分~7時宿に集合、午前7時15分宿を出発 (しめ縄・御幣・お神酒・お供え)
	以前	南部は、日の出(6時頃)に藤古橋を出発(しめ縄・お神酒・お供え)	明け方(6時ころ)宿に集合 (しめ縄・御幣・お神酒・お供え)	見送りの幼児には、小御幣を配った		午前7時30分頃宿に集合、午後1時宿を出発 (しめ縄・御幣・お神酒・お供え)	年長者を先頭に御幣・油揚げ・五目ご飯・他の者は神を振りながら登る
	食事	無し	無し	昼)カレーライス	昼夜ともサブセンターで年の順に座りケーキも食べる	昼)かやくご飯・唐揚げ・ウインナー・ちくわ・サラダ・おすまし・漬物等 夜)カレーライス・漬物	朝)おにぎり3個(鮭・くんぶ・おかか) 昼)カレーライス(中辛) 夜)炊き込みご飯
	以前	昼)炊き込みご飯・ノッペ汁・漬物・カレーライス等	昼)カレーライス 夜)馬肉の混ぜご飯	五目ご飯・味噌汁(原則宿のおもてなしである)	昼夜とも宿で準備する年の順に座ってお膳で食べる	昼)かやくご飯・おすまし・漬物 夜)昼の残り・漬物	
祝儀分配	以前	無し	無し	学年によって分配率を決め高学年程高い率に成っている	一律に配る	学年によって分配率を決め、高学年程高い率に成っている(プラモデル・菓子等)	学年によって分配率を決め、高学年程高い率に成っている
	以前	文具・おもちゃ・お菓子等	40年前頃 おもちゃ・文具 30年前頃 お金で分配	文具・おもちゃ、一時期現金を分けた事もある	学年によって分配率を決め、高学年程高い率に成っている(お菓子など)	麻・コマ正月用品・文具	一時期現金を分けた事もある
その他	準備は子ども達で行った。しめ縄は宿の親や祖父が教えた食事前に「しよんしよんしよんのしよん」と合唱した	チャンバラごっこやターザンごっこなどで遊んだ。上野とチャンバラごっこをした。しよんしよんしよんのしよん」と合唱した	チャンバラごっこやターザンごっこなどで遊んだ。上野とチャンバラごっこを見た「パンザイ」と歓声をあげ、手を叩く	参拝後、近くの広場へ移動し、竹を燃やして竹の爆ぜるのを見て「パンザイ」と歓声をあげ、手を叩く	以前の遊びは、宝探し(景品がでた)やチャンバラごっこ・相撲・マラソンなどで上級生が企画する	山の神の規則がある10か条がある ①大将の云う事を聞く ②少しのことで泣かないなど しめ縄や水引の作り方が書いて有る	4月第1日曜日に大人の山の神神事をしている 現在は歳旦祭の後神事を行う 大阪砕石の安全と繁栄も併せて祈願する。会社関係者も参列する

神宿るさと 牧田 山の神絵図



門前 山の神

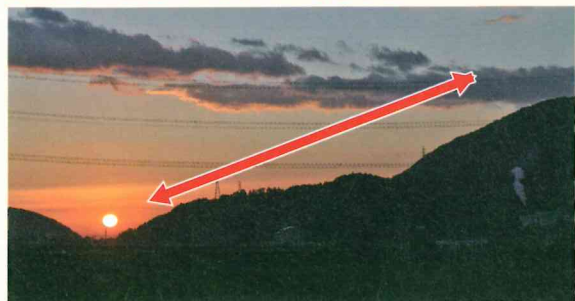


一色 山の神



門前 山の神 (元神)

牧田 山の神の特徴



特長の一つは南宮山に面した集落のみに存続している事です。

①牧田地区が太陽信仰と縁が深いことが考えられます。

写真の様に山の神行事が行われる月(11月・2月)の太陽は門前の雨ごい岩から見ると南宮山と養老山の間から登ります。この時から徐々に光が衰え冬至を迎えます。

11月は田の神さんを山へ送る神事で、水を貯め・病虫害を殺し、田畑の準備をします。冬至後は、一転光は養老山を転げ落ちるように日に日に力強くなり、2月に田の神として迎える神事が行われます。どの地域も掛け声は「ひいさまじゃ、ひいさまじゃ」と言っている事からも容易に伺われます。又、萩原八幡神社では春分・秋分の日、南宮山と養老山の重なる点から太陽が昇るのが見えます。

②金山彦命を祀る南宮大社も、生産を司る神として背後の南宮山が信仰の対象になったと考えられます。



南宮山



上野 山の神



出屋敷 山の神



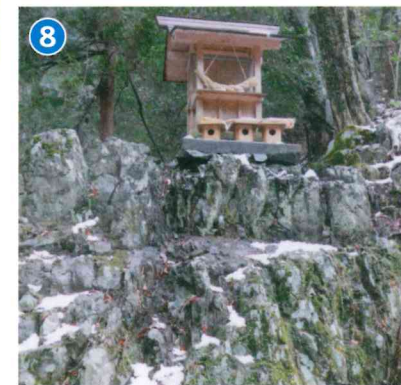
二又 山の神



乙坂 山の神



象鼻山1号古墳 鏡・琴柱



山村 山の神



二又 山の神 (下神)



牧田 山の神

山の神の信仰は、最も古いと言われています。牧田ではいつ頃から始まったか定かではありません。牧田の特徴の一つ、子ども達が祭事をするようになった時期も今は知る人も無く、古くから行われていた事が伺われます。子ども達が携わるようになったのは、神社の行事に新嘗祭(にいなめさい)・神迎えや祈年祭など同様なお祭りがあり、娯楽の少ない時代に、大人が子ども達で行う行事として与えたと考えられます。結果としてご先祖を尊ぶ、自然宗教(むら社会)の第一歩を経験する事になりました。そして地域の結束に繋がったと思います。

全ての地区共通として、小中学生男子が行ってきたお祭りも、昨今は少子化が進みお祭りが出来ず、子ども達から自治会に戻された地区が、3自治会になりました。又、色々な事由で女子の参加を認め維持されている地区もあります。

お祭りの準備は、前日までに上級生や宿の人を中心に、しめ縄・榊等のお供えを作ります。他の人は当日の米、野菜等の材料や、資金などを集めて回り、景



しめ縄



品等の買い物をします。

当日は、早朝薄暗い時に宿(現在はコミセン)に集まり、道行きの準備をします。しめ縄・

大榊の役付きを先頭に列をつくり、山の神へ向かいます。道中はどの地区もほぼ同じ様な内容の「山の神さんのお祝いじゃ、ひいさんじゃ、ひいさんじゃ」の掛け声をかけて登ります。途中大榊を滝つぼに投入するところもあります。お供えは、しめ縄・榊・ご幣・お神酒・混ぜご飯等は共通です。油揚げ(お米の神「お稲荷さん」の影響か?)白むし・お菓子等、地域によってまちまちです。神前でお参りをした後に、全員で分けて直会を行います。山から下りて宿に戻り、楽しい食事(カレーライス・混ぜご飯等)の後は、色々企画された遊びをして過ごします。又、神輿のある地区は、神輿を担ぎ各戸を回り、ご祝儀を頂いて分配の資金としました。最後は年長者が学年に応じた分配率を決め、現金や文房具・お菓子等を配り楽しい一日を過ごします。

